

【登録部門(価値評価)】

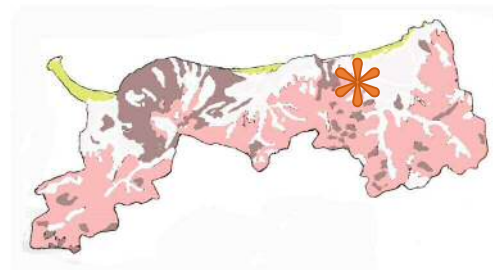
Ⅰ生産振興				Ⅱ景観	Ⅲ生態・環境	Ⅳ教育・福祉	Ⅴ歴史・文化
1砂丘土	2黒赤土	3褐色土	4灰色土	◎	☆	◎	◎

(評価指標: ☆秀 ◎優 ○良)

## 日光冬水たんぼ

【主要作目】

・水稲



【所在地】鳥取市気高町

【連絡先】鳥取市農業委員会

TEL 0857-20-3391

(又は鳥取県農業会議)



写真提供: 鳥取市広報課

### (1) 亀井公のおかげ

日光冠水田は江戸時代初期に鹿野城主亀井茲矩が池を干拓して水田開発を行った。そして亀井公は朱印船貿易で東南アジアからしょうがを持ち帰って栽培させたのがこの地区の特産物である「日光生姜」の始まりと言われ、400年以上の歴史がある。

昭和59年から平成4年にかけては場整備が行われ、約32haが立派な水田に再整備されたのを契機に、平成23年には日光集落の水田地権者34人によって「農事組合法人日光農産」が立ち上げられ、集落の住民共同での集落営農により米、ねぎ、大豆を生産している。

### (2) 土地改良部局の所管するめずらしい海岸

冠水田での稲作には排水対策が不可欠であり、作付期間中は池の水を日本海まで汲み出して干し上げし、そのために排水路や排水ポンプ等の整備が必要である。冬期は日本海からの強い季節風で砂が堆積し河口閉塞を起こすことから絶えず海岸に排水河口を確保しておかななくてはならずこの維持管理作業は大変である。この2つの<sup>せきこ</sup>潟湖から注ぐ海岸線にはこのための海岸保全施設が設置され、土地改良部局が所管する極めて珍しい海岸として3箇所、計246mが指定されている。

### <sup>せきこ</sup>潟湖からうまれた農地

浜村温泉の東には日光池と水尻(みずしり)池がある。この二つの池は元々日本海につながる<sup>せきこ</sup>潟湖であり、夏季にはポンプで池の水を排水して稲作を行い、秋の稲刈り後には水がたまって池のようになっている。水深が浅いのでカモやコハクチョウなどの絶好の越冬地でもある。

### (3) むらおこしに「しょうが」

しょうがは体の免疫力を高め風邪を予防したり、冷え性を改善したりするなど健康食材として近年注目されている。日光集落では、先祖代々受け継がれる「生姜穴」でしょうがを熟成保管する。山の斜面をくり抜いた洞状の坑道のようなもので、奥行きが20m以上あるものもある。穴の途中はアリの巣のように横穴が枝分かれし、それぞれの場所で新生姜、囲い生姜、種生姜としてミルフィーユ状に積み重ねて年中保存され、年間を通じて出荷される。近頃はしょうがは酢漬け、佃煮、コンフィチュール(ジャム)などに地元加工もされ、むらおこしの元気のみなもととなっている。



写真提供: 鳥取市広報課

### (4) もうひとつの水尻池

日光池はほ場整備されて優良農地となったが、もう一つの水尻池は減反・水田転作の政策転換の中で稲作をやめて池を活用した淡水真珠の養殖が始められたが、現在は事業中止され、一年中が「池」の状態の水鳥たちの楽園となっている。神話の白兔海岸にも近く、西因幡県立自然公園の一部に指定されていて、池の周辺は絶好の探鳥スポットである。